

里の景観や文化は どのように 受け継がれている？

丘陵や河川、湧水の周辺では、自然と共生した人々の暮らしが営まれていきます。自然と人々の暮らしが一体となった里の景観や文化はどのように育まれ、受け継がれてきたのでしょうか。里に残る景観や人々の生業、暮らしの様子から読み解いてみましょう。

上恩方町の田園風景



高月の集落に残る小径

八王子は、丘陵地の緑や川、湧水など豊かな自然環境に恵まれ、その中で人々が生活を営んできました。高月町の田園風景をはじめとして、市内には自然と人の営みが織りなす美しい景観が残されています。里に生息するホタルや希少種のキンラン・ギンランは、自然とともに生きてきた人々の思いを伝えているようです。

里では、養蚕や炭焼きなどの生業が営まれ、^{かてめし}どんど焼きや福の神などの伝統的な行事が引き継がれています。また、^{かてめし}糰飯などの故郷の味が今なお親しまれています。

里には農耕地とともに生活・生業の空間である集落が形成され、民家や蔵、生垣、里道、石造物、水路などが一体となり、文化的な景観を構成しています。その中で長く積み重ねられた文化や風習は、里に暮らす人々により守り続けられています。



道の駅八王子滝山で販売されている市内で採れた野菜

里の文化的景観

日本の多様な気候風土の中で、人々は、自然と関わりながら生業を営むことで暮らしを立て、長い年月をかけてその土地ならではの特徴的な景観を築き上げてきました。このような生活や生業、風土に根ざした里の景観は、日本の文化を理解する上でとても大切です。近代化とともに、各地のこのような景観は失われつつあります。文化財保護法では、こうした景観を受け継ぐ土地を「文化的景観」とし、文化財の一つに位置づけています。八王子にも、季節の変化を映し出している里の景観が今も大切に残されています。

水田の景観

八王子の水田は、河川の水を引いてつくられた水田と、湧水や沢の水が流れ込む谷戸につくられた水田の2つに分けることができます。秋川の良質な水を引いてつくられた高月町の水田は、八王子の米どころとなっており、日本の原風景ともいえる田んぼが広がっています。一方で、谷戸の水田が、宅地開発とともに姿を消していきましたが、長池公園(別所)の中には、溜池と広大な雑木林、田んぼといった里の環境が保全されています。また、上川の里特別緑地保全地区(上川町)では、かつては数十枚の棚田を有したこの地を再び里として甦らせようと、地域住民や保全団体等が活動しています。市内各地では伝統的な景観を残そうとする取組が行われています。



都内一の面積を誇る高月町の水田



谷戸に育まれた東中野の水田



長池公園内での田植え風景

畑地の景観

八王子市の農業生産高は都内で一位を誇ります。古くはイモ類の栽培が中心でしたが、現在では、ダイコンやナス、トマトなど、市域全域で様々な農産物が生産されています。市内で伝統的に栽培されてきた川口エンドウ、八王子ショウガ、高倉ダイコンの3種類は、「江戸東京野菜」として出荷されています。このうち、高倉ダイコンのすだれ干しの風景は、「八王子八十八景」にも選ばれています。

麦栽培が盛んだった八王子では、明治時代末期に「宗兵衛裸麦」が品種改良により生まれました。昭和期には、一時的に生産されなくなりましたが、現在は復活栽培が行われています。

また、市内で採れた野菜は、市内の小・中学校給食で提供され、子どもたちの郷土を愛する心を育んでいます。



小比企丘陵に広がる畑地



高倉ダイコンのすだれ干し



宗兵衛裸麦

湧水の景観

湧水は、古くから飲料、洗濯、農業などに広く利用され、地域住民の生活や生業と深く結びついてきました。八王子市内では78か所の湧水が確認されています。また、市内の5か所の湧水(六本杉公園、片倉城跡公園、叶谷榎池、子安神社〈中野山王〉、小宮公園)が、東京の名湧水57選に選ばれています(現在は飲用不可)。



エノキの大木がある叶谷榎池



片倉城跡公園にある水車



小比企丘陵に広がる放牧地

放牧の景観

古くから野草地は、放牧地として活用されてきました。採草、放牧などによって形成、維持され、人と自然によって作り出された里の景観の一つとなっています。八王子の酪農の始まりは、明治25年(1892年)にさかのぼります。井草甫三郎によって、三多摩で初めて導入されました。

水路の景観

市内にはかつて、農作物の生産性向上などに大きな役割を果たした水路が多くみられました。近年では、農地の宅地化が進み水路の多くは暗渠化^{あんきょ}されて姿を消していきました。残された水路は、地域住民などの維持管理により、親水空間や美しい景観を形成しています。また、防火用水としても活用されるなど地域に潤いを与えています。



高月町の水路

生業・暮らし

かつて里山は、生業や暮らしの原点でした。直接的に里山から採取される木の実やキノコ、山菜、獣肉だけでなく、人々が食の煮炊きに利用するエネルギーとなる薪や炭も里山から産出されていました。また、堆肥などに利用するクズ(落葉)の採取も行われ、資源を循環させて活用する生活様式ができていました。

養蚕

戦前までは養蚕農家一軒で、トラックの荷台いっぱいの繭を製糸工場に持っていく光景があたりまえに見られました。現在、市内では数少ない農家が養蚕の伝統を守り継いでいます。そのうちの1軒である長田養蚕では、学校の体験学習の中で、繭から糸をとることは「蚕の命をいただいている」ということを子どもたちに教えています。



炭焼き

かつては、耕作の合間に行われていた養蚕と共に、里山の木材を炭焼きにして生活の糧としていました。現在は生業として行われていませんが、長池里山クラブなどが間伐材を利用し、里山の自然の保護活動の一環で実施しています。





メカイ

篠竹で作る六ツ目編みの籠のことで、江戸時代の終わりごろから行われていたと伝えられています。農閑期の秋の終わりから冬にかけて、昼間は薪とりや落ち葉掻きなど外の仕事をし、夜になると囲炉裏や火鉢を囲んで一家総出で作業にかかったといひます。

郷土食

農家の暮らしなどに関わりが深い郷土料理がたくさんあります。市内の学校給食では、^{かてめし}糰飯などを献立に加え、郷土を愛する心を育んでいます。



たらし焼き

おやつとして食べられていました。小麦粉を水で溶いて焼いたもので、砂糖醤油をつけて食べます。



糰飯

大勢の人が集まったときに振る舞われた行事食です。「^か糰てる」とは「混ぜる」という意味で、米が貴重だった時代に野菜などを混ぜて食べたことからこう呼ばれています。



煮だんご

普段の生活でよく食べられていました。小麦粉を水でこねた団子を入れた「すいとん」のようなものです。

主な構成文化財

①高月の田園風景



〔高月町〕

高月の田園風景は、都内最大の面積を誇り、地域の人々の生活や生業により形成された景観です。周辺には稲作などの農業を営む集落があり、滝山城跡と高月城跡を眺望することができます。

②上恩方の田園風景



〔上恩方町〕

陣馬街道沿いの谷戸地に広がる上恩方の田園風景は、地域の人々の生活や生業により形成された景観です。街道沿いには、農業を営む集落があり、童謡「夕焼小焼」の歌詞の情景を連想することができます。

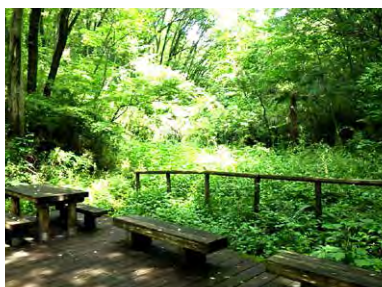
③栃谷戸公園



〔みなみ野五丁目〕

八王子ニュータウン内にある、段々畑など里山の風景を再現した公園です。田植えなどの体験学習が行われています。展望台から眺める富士山も素晴らしく、「関東の富士見百景」、「八王子八十八景」に選ばれています。

④小宮公園の大谷弁天池



〔大谷町〕

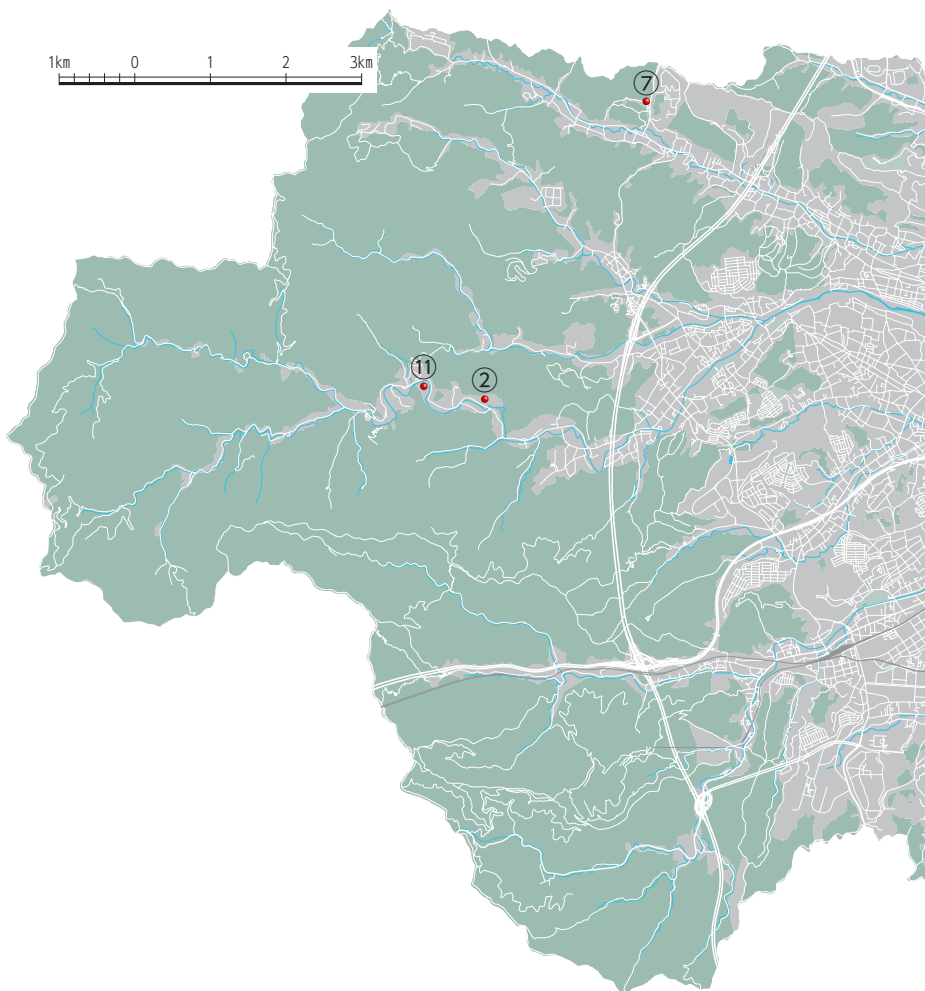
ひよどり沢で湧出した水が、雑木林の谷間を流れる大谷沢を通して、一部が大谷弁天池に流れています。大谷弁天池は、天明年間の干ばつの際、農民を救うために溜池を掘って弁財天を祀ったと伝えられています。東京都環境局の「東京名湧水57選」に選ばれています。

⑤子安神社の湧水



〔中野山王二丁目〕

「明神様の湧水」として昔から近隣の人々に利用されてきました。東京都環境局の「東京名湧水57選」に選ばれています。





⑥六本杉公園湧水池



〔子安町二丁目〕

JR八王子駅の南側、六本杉公園内にある湧水池です。隣接する「いずみの森義務教育学校」の校名の由来にもなっています。また、「八王子十八景」にも選ばれています。

⑦上川の里特別緑地保全地区



〔上川町〕

豊かな自然環境の保全を目的に、特別緑地保全地区として指定されました。地域の人々やNPO法人等によって、水田や手入れされた雑木林など、昔の里山の風景が取り戻されつつあります。

⑧八王子堀之内里山保全地域



〔堀之内〕

保全地域の大部分はコナラなどの雑木林のほか、スギなどの植栽林が点在しています。区域内の谷戸の一部は水田として利用されています。

⑨八王子滝山里山保全地域



〔滝山一丁目、梅坪町〕

丘陵地の谷戸地形に、湿地、草地、雑木林、自然林など多様な自然が組み合わさった里山の環境が残る地域です。キツネやゲンジボタルなどが生息し、植物では、キンラン、キツネノカミソリなどが自生しています。

⑩長池公園



〔別所二丁目〕

別所地区に位置する自然保全型公園です。公園北側には広々とした芝生広場と長池見附橋、人工の姿池とが織りなす景観が広がります。一方でその奥には、長池・築池の2つの溜池と広大な雑木林、田んぼなど、里山の環境が保全されています。

⑪力石用水



〔上恩方町〕

かつて田んぼに引かれていた水路は衰退してしまいましたが、水路を活用してニジマスの養魚場が営まれ、北浅川ではマス釣りを楽しむことができます。

文化財の保存・活用事例

農業でまちづくり

地域住民や農家・事業者などが参加するNPO法人はちぶろが地域の農家と連携して耕作放棄地を活用し、酒米を生産しています。現在酒蔵の整備を検討するなど、八王子産の米を原料とした日本酒造りを通して地域の活性化に取り組んでいます。



上川の里特別緑地保全地区での里山の保全と活用

上川の里特別緑地保全地区は、長い間人の手が入らず、うっそうとしたままになっていました。かつては数十枚の棚田を有したこの地を、地元の人々や保全団体等と協働しながら里山として再生を進めています。また、子どもたちが里山に触れて学べる環境教育・学習の場や事業者によるCSR・CSV活動の場など、今の時代に合った「現代の里山」の姿を模索しながら、保全と活用を進めています。



メカイづくり

メカイづくりは江戸時代の終わりごろから行われていたと伝えられています。地域に伝わる民俗技術の習得と次代への伝承に、里山農業クラブが取り組んでいます。

当クラブは、地域に伝わる民俗技術を後世に残すために記録するとともに、メカイの普及のための実演会・講習会を開催しています。なお、メカイ製品の販売も行っています。



沿道集落の再生活用

小津町では、地域住民が中心となりNPO法人小津倶楽部を設立し、耕作放棄地や山林などの地域資源の再生事業、古民家のリノベーションなどの活動を行っています。小津倶楽部は、「地域を元気にする活動をずっと継続していきたい」という思いで活動しながら「様々な人の力を借りながら活動を広げて、恩方地域全体を元気にしたい」という夢を描いています。

